鹿児島建設新聞 日刊（日・祝日休刊、月曜版随時） （第三種郵便物認可）

建災防肝属分会災防大会

基本的対策と安全管理

建災防県支部肝属地区分会（原口優分会長）は18日、鹿屋市の鹿屋商工会議所で、第25回安全祈願祭と労働災害防止大会を開き、来賓、会員ら約300人が出席、今年1年の無災害を目指して、3大災害災害絶滅のための基本的対策と安全管理を徹底する決意を新たにした。

大会に先立ち、同会議所で安全祈願祭が行われ、谷口幸司理事が安全の誓いを読み上げ、各代表がそれぞれの立場から安全を祈願して玉串を捧げた。

災防大会では、各種表彰の後、原口分会長が「安全、安心は全てに優先し、事業主自ら率先して安全の確保に取り組もう」と呼びかけ、谷口屯県支部長は「いかなる現場においても災害があってはならない、常に新しい気持ちで安全対策に取り組み3大災害の防止と安全施工サイクルの徹底に努力しよう」と訴えた。

続いて、山下栄鹿屋市長、井手上康弘大隅工事事務所副所長、川崎達雄鹿屋耕地事務所長が来賓挨拶し、斎藤寛協同組合鹿屋建友会理事長が大会宣言を読み上げ、倉岡哲哉高山町長の万歳三唱で大会を終えた。

安全施工サイクルの徹底など努力することを確認した災防大会＝鹿屋市の鹿屋商工会議所で

ダムを核とした地域の活性化を祈念した落成式＝鶴田町神子で

鶴田ダム管理所新庁舎が落成

地域防災の拠点に

国土交通省の鶴田ダム管理所新庁舎落成式典は18日、薩摩郡鶴田町神子の現地で、小里貞利衆議、江頭和彦九地整局長、直江延明県土木部長ら約100人が出席して開き、最新設備の操作室等を備えた施設の完成を祝うと共に、ダムを核とした地域の活性化と安全確保を祈念した。

式典では、初めに藤林剛鶴田ダム管理所長が工事関係者らへの敬意を表して式辞を述べた後、江頭局長が「新庁舎の完成を契機に、地域防災の拠点として益々発展することを願っています」と挨拶。同局長ら7人がテープカット、地域代表がくす玉を割って、完成・供用を祝った。

新庁舎は、築後37年と、老朽化、観測設備等の更新が遅れた旧庁舎の近くに建設。敷地約4000平方㍍、RC造2階建延べ2460平方㍍の建物。平成5年から測量設計等を進め、10年に着工、今月竣工となった。総事業費約19億円。

施設概要は、1階に電気室、予備発電機室、2階に操作室、ダムコン室、測量機室、無線室、事務室など。ことに、操作室は気象・水象の情報基地となっており、データ表示盤には川内川流域の雨量、水量・水位などを出し、ダム管理システムの中枢である。

建災防奄美分会災防大会

交通災害の撲滅誓う

建災防県支部奄美分会（畠義利分会長）の14年安全祈願祭と第28回労働災害防止大会が18日、名瀬市の奄美建設会館であり、会員ら約100人が出席して労働災害、交通災害の撲滅を誓った。

安全を祈願して玉串を捧げた祈願祭＝名瀬市の奄美建設会館で

安全祈願祭では、畠分会長、建災防県支部の岡村一義事務局次長、山崎秀一名瀬労働基準監督署長、川島健勇大島支庁長らが玉串を捧げ、安全と各企業の繁栄を祈願した。

労働災害防止大会ではまず、全員で黙とうを捧げた後、畠分会長による「安全の誓い」朗読に続き表彰式が行われた。

畠分会長は「労働災害は決してあってはならないものとの観点から、これまで安全意識の高揚に努めてきたが、今大会を契機に更なる決意を持って災害を撲滅しよう」と挨拶を行った。来賓祝辞の後、奄美建設業協会の尾崎健一労務委員長が安全衛生教育の徹底、安全衛生活動の推進などを盛

事業場賞＝㈲関造建設、㈲神崎組、㈱瀬戸建設、㈱三栄ハウジング▽個人賞（功労賞）＝藤崎良隆、㈱浜田建設、久水田義治、㈲丸久建設▽功績賞＝小脇秀丸（大隅建設）、㈱永田義昭（肝付土建）、㈱吉留組）

職長賞＝江口博幸

建災防栗野分会災防大会

経営者の意識改革を

建災防県支部栗野分会（佐々良忠満分会長）は18日、姶良郡栗野町の中央公民館で第25回安全祈願祭並びに災防大会を開き、会員の労災防止への熱心な取り組みに感謝するとともに、更なる努力で健全な発展を図ることを誓い合った。

安全祈願祭では佐々良分会長、八木純一郎建災防県支部事務局長、玉利栄輝加治木労働基準監督署長、栗尾和宏川内川工事事務所菱刈出張所長、大内田昭和栗野土木事務所長、星野清治加治木耕地事務所長らが神前に玉串を捧げ、佐々良分会長が誓いの言葉を述べた。

災防大会では、各種表彰の後、佐々良分会長が「当分会の重大災害ゼロ継続は会員の理解と協力、高い認識の結果。経営者の意識改革とあらん限りの知恵で、固い信念の下、希望を持って健全な発展に努力していただきたい」と挨拶。八木事務局長も「皆様の安全管理に対する高い認識の結果。経営者の意識改革とあらん限りの知恵で、固い信念の下、希望を持って健全な発展に努力していただきたい」と挨拶。八木事務局長も「皆様の安全管理に対す

更なる研さんで災害ゼロの継続を誓い合った災防大会＝栗野町の中央公民館で

続いて来賓の玉利署長、栗尾所長、大内田所長、米満重満栗野町長が「会社にあっては社長が、現場にあっては代理人が無災害への決意を示し、従業員にはルール遵守の教育を」等と祝辞を贈った。

山口克則労務委員長が力強く大会宣言を行った後、田上俊廣副分会長の万歳三唱で終了した。

分会長表彰は次の通り。

安全対策優秀賞＝㈱黒江工務店 ㈲吉村砕石▽安全対策功労賞＝荒武功二㈱黒江工務店）吉村慎一（㈲吉村砕石）

【訂正】18日号3面のアートボックスで室内写真の方向が縦横違っていました。訂正してお詫びします。

橋の日推進協が県知事表彰

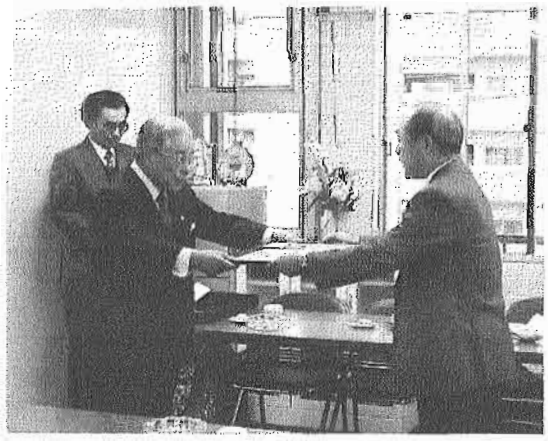
更なる河川愛護を

橋の日推進協議会（濵園茂木会長）は18日、鹿児島市の県鋼橋塗装協同組合で13年度河川愛護運動に係わる県知事表彰を受けた。

表彰式では、鹿児島土木事務所管内の対象者である同団体に鳥巣佳彦鹿児島土木事務所長ら所員が表彰状を持参し伝達表彰。表彰の趣旨などの説明の後、鳥巣所長から濵園会長に賞状が手渡された。

このあと、鳥巣所長が「河川愛護運動の趣旨を十分に理解され、河川清掃などのボランティア活動を行っているものと思う。川は暮らしに潤いと憩い、やすらぎを与えてくれる貴重な役割を果たしている。また、ハード的には災害に強い県土づくりのため、災害の未然防止に向け整備を進めていくことから、更に自然との共存・思いやりを育み川に親しみ河川愛護に努めてほしい」と挨拶した。これを受け濵園会長が「奉仕活動を通じ、県民・市民に橋や河川の大切さを伝えていきたい。また、今回の表彰を機に我々の身近にある川や橋、自分たちの住む町や故郷を愛する気持ちなども養い、住み良い町づくりの一翼になるよう更に頑張っていきたい」と述べた。

橋の日は、8月4日を語呂合わせで「橋の日」と定め、平成8年に1回目を開催し今年で7回目。さまざまなイベントを盛り込み、毎年参加団体が増え、充実した活動を展開している。



鳥巣所長から濵園会長（左）に表彰状を授与＝鹿児島市の県鋼橋塗装協同組合で